

各 位

2023年5月17日
株式会社天夢人

刀を彩る小宇宙の美と世界観、刀装具の魅力が満載の第2弾！
刀剣ファンブックス 009『刀装具 新・解体新書 2』発刊

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2023年5月17日に、刀剣ファンブックス 009『刀装具 新・解体新書 2』を刊行いたしました。



海外でも関心を集める日本刀ブームは、刀を彩る刀装具にも広がっています。鐔(つば)、目貫(めぬき)、小柄(こづか)、筭(こうがい)、縁頭(ふちがしら)など、その小さな金属片には高度な細密工芸の彫金技法から、鍍付け、合金、色上げなどの金属加工技術に至るまで、何百年にもわたり培ってきた独自の優れた技術が含まれており、今も多くの分野で応用されています。技術国としての日本の基礎を作ったのは、こうした日本古来の伝統文化であるといっても過言ではないでしょう。

本書は刀装具研究家の著者による刀装具の名品を紹介した第2弾。前回紹介できなかった作品の数々を多数掲載し、作品の背景や舞台裏などを紹介したコラムも充実させています。初心者でも楽しめるよう時代別や地域別ではなく、作家・ジャンルごとに基本的に五十音順で紹介しています。刀だけでなく刀装具を知ることによって日本刀や日本文化への理解をさらに深められる一冊です。

【目次】

第1章 刀装具の基礎知識

- ①刀はなぜ装飾されたのか？
- ②折紙とは一七日は何の日？
- ③鐔／目貫／小柄／筭／縁頭
- ④刀装具の用語解説

第2章 刀装具 作者別・作品紹介

荒木東明 雁図大小縁頭
石黒是美 松猛禽図縁頭
石黒政美 牡丹孔雀図大小鐔
泉〈柳泉〉公士郎 安親写し 水龍図鐔
一宮長常 鹿島事触之図目貫
伊藤勝見 稷尊図小柄
岩本昆寛 兎図鐔
岩本昆寛 鶴図大小縁頭
埋忠明寿 九年母図鐔
大月光興 左義長図鐔
大森英満・阪井俊政 宇治川先陣図縁頭
加納夏雄 鍾馗追鬼図縁頭
（古甲冑師）日足透図鐔
（古金工）秋草に秋虫目貫
（古正阿弥）見跡図鐔
（古刀匠）日月透図鐔
後藤祐乗 勝矢図小柄
後藤宗乗 夕顔図小柄
後藤乗真 二疋獅子金目貫
後藤徳乗 韋駄天鬼金目貫
後藤栄乗 三双丸桐紋小柄
後藤顕乗 色絵水仙目貫
後藤即乗 越後獅子金目貫
後藤程乗 牛若丸弁慶大小金目貫
後藤廉乗 赤龍図二所物
後藤一乗 唐松鶴巢籠色絵縁頭
後藤悦乗 源平合戦図大小鐔
阪井俊政 弁財天来迎図鐔

篠山篤興 秋草に白蛇図鐔
志水仁兵衛(初代甚五) 潮招き図鐔
志水永次(2代甚五) 古木に蜘蛛図鐔
杉浦乗意 天龍之図縁頭
杉浦乗意 恵比寿釣魚図鐔
高瀬栄寿 孔雀図鐔
田中清寿 明烏図鐔
土屋安親 越後獅子目貫
土屋安親 親子猪図鐔
土屋安親 三疋馬図鐔
奈良利寿 親子虎目
奈良利寿 虎児渡し図小柄
奈良利治 苦舟図鐔
西垣勘四郎 苦舟図縁頭
西垣永久 田毎の月図鐔
野原知広 雀蛤図大小鐔
信家(初代信家) 野晒に題目文字鐔
浜野政随・河野春明 大森彦七図縁頭
林又七 鉢木透図鐔
(播州埋忠) 大石内蔵助所用 四方二つ巴紋鐔
平田彦三 左右扇面透火焰文象嵌鐔
(柳生) 風帆図鐔
柳川政次 百足図縁頭
山吉兵(山坂吉兵衛) 長耳兔透図鐔
横谷宗珉 枝牡丹図小柄
横谷宗珉 水仙図三所物
横谷宗與 鬼追い鍾馗図鐔
横谷宗與 五疋虎図小柄

Column

消された交友関係―尾形光琳・横谷宗珉邂逅秘話

男は何をしているのか？

実は愛されキャラ？―ねずみの嫁入り

土屋安親が描きたかった2つの香り

この鳥の正体は

あとがきにかえて

Goto Sojo

後藤宗乗 夕顔図小柄

銘：故宗乗 光尚（花押）、地金：赤銅魚子地、技法：高彫・金銀色絵、時代：室町時代後期（16世紀前半）、匠：岡戸健吉師範、所蔵：個人蔵、大きさ：縦14.4cm×横9.6cm

「源氏物語」に登場する夕顔は、物の怪に殺り害かれ死んでしまう薄幸の女性。朝にはしぼんでしまう夕顔の姿に、控えめで可憐な女性が重ねられているのだろうか。「源氏物語」に限らず和漢の文学に精通することは、高級武士の嗜みでもあった。



高彫した瓜に金の薄板を被せて意匠させ、あらかじめ瓜の底面に切り込んだ溝へ薄板の端を嵌め込んで固定している。

薄は金、露は銀の色絵。

繊細な時雨樋が鍵。時雨樋とは、時雨が降り注ぐように斜めに細く入れた樋目のこと。

これは後藤家2代宗乗の作であることを、10代藤原光俊が極めていた。後藤家は折紙を発行するほか、作品に絵を切る形でも文担作品の極めを出す。若輩家ご用達という性格から、後藤家の上代作品は基本的に無銘であるため、このように後代が鑑定・題めをおこなっている。

Yugao zu kozuka

夕やみにひっそりと咲く夕顔 古式の技法で彩られた美しい花と実

後藤家研究の大家岡戸健吉氏は、この優美な小柄を愛玩し、最期まで手元に置いていた。

大きく実を成長させ、層が多く、そして長く重く伸ばす夕顔は、子供菜空と家運昌隆のシンボル。また、保存品として欠かせないかんぴょうの原料でもある。

鑑賞POINT

優美に実を伸ばし、大きな瓜の葉をつける夕顔。花と瓜はうっとり技法（嵌合せ）で彩られ、露・露・露・露のコントラストが美しい。中央部にぎゅっと絞をまとめる構図は宗乗の特徴。



作者紹介

後藤宗乗 (1461～1538年)
初代後藤宗乗の次男として生まれ、後藤家2代を継ぐ。足利家に仕え、40歳で嗣嗣して宗乗を名乗る。父が割拠・確立した武家の家業としての家訓の伝承を守りつづ、夕顔や牡丹などに類する優雅な作品も残す。50年間にわたり祖父伝来の備佐をしながら刀装具製作に携わっており、祐業作と見紛うような作品も多い。

Goto Teijo

後藤程乗 牛若丸弁慶大小金目貫

銘：金無形地、技法：空彫、時代：江戸時代前期（17世紀中期）、所蔵：個人蔵、大きさ：（大・裏目貫）縦2.0cm×横1.68cm（大・裏目貫）縦1.97cm×横3.13cm、（小・裏目貫）縦1.51cm×横2.91cm（小・裏目貫）縦1.58cm×横3.32cm



大表目貫
脇の隙には源氏の家紋「宮庭丸」が嵌められる。

弁慶に向かって挑発するように顔を差し出す牛若丸。扇を持つ源光も脇の隙が埋まり、大業丁寧に作り込まれている。

脇の空探も実に精巧でリアル。

作者紹介
後藤程乗 (1603～1673年)
後藤家7代後藤藤原の長男。分家の理兵衛家を継ぎ、加賀後藤と呼ばれる金主を育て、加賀文化の発展に寄与。8代即興が早世したため、その子孫が成人するまでの13年間、一時的に9代を継ぐ。名人の養子高尾5代藤原と7代藤原の両師から教を受けた程乗もまた、多くの名品を作った名工。技術力の高さに加え、溫和な人柄を裏のように、穏やかで品格のある作品を残している。



裏側の根には4つの力金（根を補強する金片）が付けられる。

Ushiwakamaru Benkei daisho kin menuki

「その太刀をよこせ！」 牛若丸と弁慶の名場面



大裏目貫

大箱刀を構え、今にも振り上げようとする弁慶。

佩刀する太刀は、柄巻から石突金具に至るまで、大家精巧な出来栄。



後藤家作品らしい非常に高い作り込み。

日本人は利官鼻用だという。確かに、兄頼朝が差し向けた軍勢によって非常な死を遂げた牛若丸（のちの九郎右衛門義経）への憐憫の情を筆頭に、勝者・強者よりも敗者・弱者に肩入れする傾向があるのは否定できない。そのせいでだろうか、歌舞伎をはじめ彼らを主人公とした作品は数多く、刀装具もまた例外ではない。

後藤家9代後藤藤原による大小小の金目貫は、ともに牛若丸と弁慶の京都五葉大橋（真説も有）での出会いの場面を描いたもの。橋渡で律儀だったという程乗の人情を反映して、時々まで神経の行き届いた見事な作品に仕上がっている。時代の要請か、程乗作には武者図が多く、自身も得意としている。

Sugiura Joi
杉浦兼意 すまうらじょうい
Sugiura Jōi
あまりゅうのずふしがしら Amaryu no zu fuchigashira

天龍之凶縁頭

DATA 銘：泉意永春、箱書：泉意永春在銘 四分一石目地金模削泉意雲二 赤銅嵌紋天龍之圖 昭和丁亥春 阿弥宗源右 (小倉備前・印)、地金：四分一地。技法：赤銅高彫・金象嵌色絵。時代：江戸時代中期 (18世紀中頃)。伝来：網屋小倉惣右衛門→野田高代書一取并俊政旧藏、所蔵：個人蔵。大きさ：(縁) 縦0.99cm×横3.85cm (頭) 縦3.56cm×横1.72cm

縁(表)
縁(高さ)の低い縁は奈良派の特徴。
雲は何層も重なり、光を受けて輝く様子が表現される。
針の先のように尖った鋭い爪。
縁(裏)
表側から裏側にかけて、龍の爪で天を引き裂いたような溝が彫られている。

作者紹介
杉浦兼意 (1701~1761年)
戸田松平家の家臣の子として美濃国加納(現・岐阜県岐阜市)に生まれ(異説も有)、戸田松平家の転封により信濃国長野に移る。江戸へ出て泉意利治一門の泉意永春を宗匠利永に学び、戸田松平家の抱え工として江戸深川に住む。奈良派風の高彫色絵と、自ら完成させた肉合彫の作品で高い人気を集めた。

金家、信家、後藤家上三代に横谷宗理、刀装具愛好家が手に入れたと思う作家は数やあれど、その数たるものは杉浦兼意だろう。とにかく作品数が極端に少なく、手に入れるなど夢のまた夢。いや、数が少なすぎて夢にさえ出て来てくれない。
この作品は、そんな泉意の稀少な縁頭。細かく石目を入れた四分一地に描き込まれるのは、真真正正の天龍。光を受けて輝く雲は、金の模削泉意(傳子)の金色絵にもみえて描かれる。
天龍は細長い体を持った幼い龍。幼龍で

Amaryu no zu fuchigashira

奈良派の佇まいをみせる 稀少な兼意の縁頭

縁(表)
頭は奈良派らしい細長い楕円形。天高く昇る赤銅地の天龍は、この細長い形を流かして描かれている。
雲は割合の配合を変えた2色の金で表現。
縁(側面)
高銅の下地の上に四分一の平を接合。両者にわずかな差を設けることで、平の周囲を針金状の高銅で囲んでいるようにみせている。
縁(裏)
平の素銅地と四分一を上下が所固定。
あるため体に馴染まないもの、その爪は鋭く、兼意の金印象嵌を恐ろせる非常に精密な作り込み。龍の姿は後・項それぞれ彫を活かして描写され、兼意の天賦的な才能がデザインにも発揮されているのがわかる。
この作品は、昭和・平成を代表する名工版井俊政氏が、江戸期の金工技術を研究するために収集していた作品群の一つ。素銅地に四分一地を重ねた頭をはじめ、兼意の技術力だけでなく、発想と工夫の凄さにも驚かされる。

刀刻南網屋(阿弥宗源とも称す)5世主人小倉惣右衛門氏による箱書。昭和丁亥は昭和22(1947)年。自身の『小倉箱書』印のほか、網屋で修業した野田高代書氏の印もみえる。

【著者プロフィール】

生田 享子(いくたきょうこ)

学習院大学文学部史学科卒業(日本近世史専攻)。同大学史学科研究室副手、同大学史料館学芸員を経て、現在(公財)日本刀文化振興協会特別研究員。主な著作に「刀剣女子、刀装具にハマる」(『刀剣春秋』収載、2017年7月～、刀剣春秋新聞社)、「刀装具ぎやらりい」(『週刊日本刀』収載、2019年5月～2021年10月、デアゴスティーニ)、『刀装具 新・解体新書』(2022年1月、天夢人)など。

【書誌情報】

書名: 刀剣ファンブックス 009『刀装具 新・解体新書 2』

仕様: A5判 160 ページ

定価: 2,530 円(本体 2,300 + 税 10%)

発売日: 2023年5月17日

全国書店、オンライン書店の Amazon などで発売中。

<https://amzn.to/3Ffc7ns>

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月21日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:野口

Tel: 03-6837-4680 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://www.temjin-g.co.jp/>